

柏葉脳神経外科病院広報誌／季刊

# かしわば

Vol. **36**

**2013.5**

K a s h i w a b a   N e u r o s u r g i c a l   H o s p i t a l

## 超急性期の脳梗塞 4時間半以内に t-PAによる血栓溶解療法を

柏葉脳神経外科病院 副院長  
脳神経外科 徳田 耕一

 特定医療法人  
柏葉脳神経外科病院

# 超急性期の脳梗塞

4時間半以内に

# t-PAによる血栓溶解療法を

同居している家族の判断が命を救うことも  
症状に気がついたら速やかに**119番**を！

「あのとき、救急車を呼んでいれば」「あの症状がそうだったのか」と脳梗塞を経験した多くの患者さんやご家族は口を揃えます。救急車を呼ぶのをためらったことで早期受診のタイミングを逃すケースも少なくありません。症状が出てから受診するまでの時間が、その後の経過や後遺症を大きく左右します。

いかに早く対応するかが  
重要です

脳梗塞は発症後4時間半以内なら、t-PA製剤で脳の血管に詰まった血栓を溶かす「血栓溶解療法」が適応できます。

当院でも2005年12月から2012年12月未までに185症例の実績があり、そのうち約3割の患者さんが後遺症なく退院し、スムーズな社会復帰を果たしています。薬の効果やリスクを考慮し「4時間半以内の実施」が定められています。治療開始が早ければ早いほど、後遺症なく回復できる可能性が高まります。

初期症状を  
軽く考えてしまつと…

若い患者さんの場合は今までに経験したことがない視覚や感覚の異常に本人がすぐに気がつき、救急車で来院することが多いのですが、高齢の患者さんの場合は「いつものしびれがひど

くなった」「寝不足でふらついた」

「足の持病が悪くなった」と、脳梗塞の症状が出ているにも関わらず、軽く考えて放置しがちです。

特に一人暮らしの高齢者の場合は「いつもの薬をきちんと服用しているから脳梗塞になるわけがない」「明日になるまで様子を見よう」「夜中に迷惑をかけたくないから」と考える傾向があります。その結果、受診が遅れ、「血栓溶解療法」を受けるチャンス逃しているケースが後を絶ちません。

「血栓溶解療法」を受けることができた患者さんの多くは、家族が「いつもと様子が違う」「もしかしたら脳の症状ではないか」と気がつき、速やかに救急車を呼んでいます。

体の片側だけに  
異常が現れたら

脳梗塞の発症を見極めるポイントは「体の片側だけに異常」が現れること。症状の出方が軽



柏葉脳神経外科病院  
副院長  
脳神経外科  
徳田 耕一

片腕に力が入らない、顔の片側が歪む、酔っ払ったような話し方になる、歩きにくいなどの症状が出たら、脳梗塞を発症している可能性があります



かったり、改善したりして、救急車を呼ぶことにためらいがある場合は、すぐに、かかりつけ医や当院へ電話で相談しましょう。症状が出てから受診するまでの時間が勝負です。脳梗塞の早期治療のタイミングを逃さないようにしましょう。

## Case:2

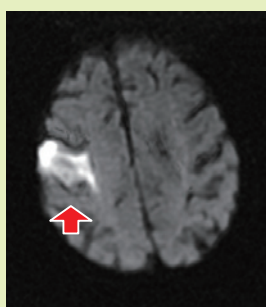
お昼過ぎ、座ってテレビを見ていたが、立ち上がったところ、ふらついて倒れる。左手足の動きが悪いことに気がついて、自ら救急車を呼ぶ。

▼ 発症から受診まで

80 歳代

立ち上がったら  
ふらついて

治療結果  
左麻痺が改善し自立となり、自宅退院した



MRI 画像 (矢印部分が病変)

検査所見・診断  
右前頭葉に異常所見を認め、脳梗塞と診断

## Case:1

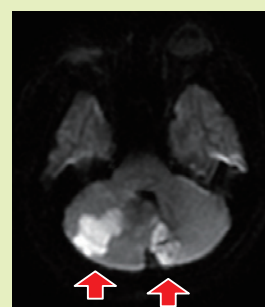
朝、トイレで頭痛とめまいが出現。家族に助けを求めた後、倒れる。駆けつけた家族が、呼びかけると目を開くが、うまく話せず、四肢もうまく動かせない。家族がすぐに救急車を呼ぶ。

▼ 発症から受診まで

60 歳代

トイレで突然  
頭痛とめまい

治療結果  
右手に力が入りにくいものの、歩行・日常生活動作自立となり、自宅退院した



MRI 画像 (矢印部分が病変)

検査所見・診断  
右優位の小脳梗塞と診断

「もしかして？」と思ったら、すぐに電話を

24H ☎ 011 - 851 - 2333

柏葉脳神経外科病院は、24時間365日態勢の緊急治療体制を整え、重篤な脳の血管障害の治療を実施しています。「いつもと違う」「もしかして」と思ったら、ためらわずに電話を！



MRI 磁気共鳴断層撮影装置

### 【柏葉脳神経外科病院の救急医療体制】

■ **t-PAモード** / 救急車搬送を受け入れてから、専門医と専任看護師、検査スタッフが連携し、最短で脳梗塞を診断

■ **脳卒中ケアユニット** / 24時間監視下で、脳卒中を集約的・集中的に治療

■ **超早期リハビリテーション** / 脳卒中発症の当日か翌日には機能回復訓練を開始

■ **チーム医療** / カンファレンスには、医師・看護師・検査技師、薬剤師・リハビリテーションスタッフ・管理栄養士・医療ソーシャルワーカーが参加し、良質な医療を提供

■ **地域連携** / 地域の診療所や病院との連携を強化し、地域医療をサポート

## Case:3

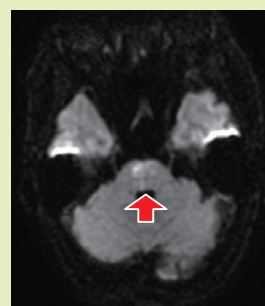
お昼ごろ、外出中に具合が悪くなり、家族に電話。ろれつが回らない話し方に脳梗塞ではないかと疑った家族が救急車を呼ぶ。

▼ 発症から受診まで

80 歳代

外出中に  
具合が悪く  
なって

治療結果  
構語障害と左麻痺が改善し自立となり、自宅退院した



MRI 画像 (矢印部分が病変)

検査所見・診断  
脳幹部に異常所見を認め、脳梗塞と診断

病院の理念

私たちは、安全で安心いただける医療のサービスに徹し、患者さんの幸せを守ります

病院の基本方針

- 患者さんにとって、思いやりのある最善の医療に全力をつくします
- 医師とスタッフによる説明と、患者さんの理解と選択に基づく医療を実践します
- 患者さんの意志とプライバシーを尊重します
- 医療従事者として、常に、豊かな人間性と技術の向上をめざします
- 救命・救急医療から心と体のリハビリテーションまで、脳の総合病院をめざします
- 地域医療機関との強力な連携をはかり、よりダイナミックな医療のサービスを提供します

患者さんの権利

- 患者さんは、平等で、安全な医療を受ける権利があります
- 自分の診療にかかわる人々の氏名と役割を知る権利があります
- 自分の病気・治療・予後について知る権利があります
- 治療について承諾・拒否する権利があります
- 自分の診療について、他医師の意見（セカンドオピニオン）を得る権利があります
- 自分のプライバシーを守る権利があります
- 公的援助、地域サービスに関する情報を知る権利があります
- 病院職員に対して、意見・苦情を伝える権利があります

柏葉脳神経外科病院

からだ★ミニコラム

歩き方を変えて  
毎日を元気に!



散歩やウォーキングが健康に良いことは遙か昔から認められていました。古代ギリシャの哲学者ソクラテスは、頭の回転を良くするために歩き、医学の父と呼ばれたヒポクラテスは、「歩行は人間の最良の薬である」と説いたそうです。楽しく歩いて、毎日を元気に過ごしましょう!

江戸時代の日本人は「ナンバ歩き」

私たちは毎日、何気なく歩いていますが、現代の日本人の歩き方は明治時代の文明開化で、生活の洋식化とともに定着した「洋式歩行」と呼ばれるものです。

それ以前の日本人は、「ナンバ歩き」が一般的だったとされています。坂道や山道、水田で作業をするのに適した歩き方で、やや前傾



姿勢をとり、膝を曲げたまま、つま先から踏みしめるように着地し、右半身と左半身を交互に前進させていました。

背筋を伸ばして歩きましょう

日本人の「洋式歩行」には、膝を曲げて歩く、前屈みで歩く、かかとを引きずるなどの特徴があり、足首や膝、腰に負担がかかるといわれています。

バランスよく歩くためには、「背筋を伸ばし、視線は真っ直ぐ正面に」。肩幅よりも広い歩幅を保ち、股関節と骨盤をしっかり動かすように



します。かかとから着地し、つま先で蹴るようにすると、足首が動いて血流やリンパの流れがスムーズになります。最初は上手に歩けなくても、意識するだけでも、健康維持に効果的です。

編集後記

4月12日に積雪0cmとなった札幌市ですが、私どもの病院周辺のあまり日の当たらない場所には、5月の初めまで黒ずんだ雪が残っていました。ようやく春らしい温かい日差しが感じられるようになってきましたが、いまだに肌寒さが戻ってくる日もあります。春は気温や気候の変化が激しく自律神経のバランスが崩れやすいと云われています。体温調節をしっかりとし、十分な睡眠と栄養をとり、体も心もストレスを感じないような生活のリズムを考えると良いようです。体調管理にご留意下さい。(小川)